



学校教育目標

自ら学び 心と体を大切にする子どもの育成

<発行> 北九州市立門司海青小学校 校長 池田 優

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

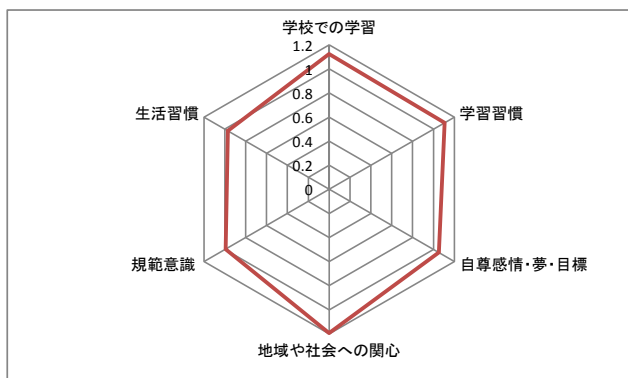
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的に、全国平均の正答率を上回った。特に、書く力を問う問題や話す・聞く力を問う問題において基礎基本の定着が見られた。	上回っている
国語B	・全体的に、全国平均の正答率を上回った。解答を選択して答える問題においての正答率は全国平均のそれを上回っているが、記述式の解答については課題があり、今後の指導が必要である。	上回っている
算数A	・全体的に、全国平均の正答率を上回った。 ・「量と測定」の領域では、全国平均の正答率を10ポイントほど上回ったが、「数と計算」の領域では、全国平均の正答率に及ばない部分もあった。	上回っている
算数B	・全体的に、全国平均を上まわっているが、記述で答える問題の中には、無解答で終わる児童の姿も見られた。	上回っている
理科	・全体的に、全国平均をやや上回った。 ・学習指導要領A区分(物質・エネルギー)の問題は、全国平均を上回ったが、B区分(生命・地球)の問題は全国平均まで至っていない。	上回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p>・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」ことや「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができる」と答える児童は全国平均よりも多く見られた。家庭での様子を見てみると、1日に1時間以上勉強していると答える児童が全国平均よりも多く見られるが、毎日、同じくらいの時間に寝ていると回答する児童の数が全国に比べて低い傾向にある。家庭での規則正しい生活習慣の見直しを児童と確認すると同時に、家庭に対しても協力を呼びかけていく必要がある。</p> <p>・住んでいる地域の行事に参加していると回答する児童の割合が高い。地域や社会で起きている問題や出来事に関心があるかという質問に、肯定的な回答をする児童は全国平均と同程度であった。今後は、家庭と連携をとり、児童の地域や社会への関心がより高まるように努めていきたい。</p>

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎「話し合う活動」と「書く活動」に重点をおいた指導を行う。
  - ・話し合いや表現活動の手だてとして、電子黒板やタブレット等のICT機器を活用する。
  - ・各学級に「さあ対話しよう」の掲示を継続し、「対話」を重視した授業を展開する。
- ◎「朝のスキルアップタイム」と「ぐんぐんタイム」の充実
  - ・朝学習の学習内容を学校全体で統一し、学習スキルの向上を目指すとともに個に応じた指導の充実を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ◎家庭学習の定着を図る。
  - ・家庭学習ウィークを設定したり、家庭学習ノートを校内の掲示板で紹介したりして、学校と家庭が連携して家庭学習習慣の定着を図る。
- ◎基本的な生活習慣の定着を図る。
  - ・保護者への「お知らせプリント」や児童への「家庭学習計画カード」の配布等により、家庭学習及び生活習慣の見直しを図る。